



ITW Performance Polymers and Fluids Japan Co., Ltd.

安全データシート (SDS)

FOODLUBE® 食品機械用多目的シリコンスプレー

発行日: 2017-04-21

改訂日付: 該当なし

バージョン: R0001.0001

1. 化学製品および会社情報

A. 製品名

- FOODLUBE® 食品機械用多目的シリコンスプレー

B. 製品の勧告用途と使用上の制限

- 用途 : 食品機械用潤滑剤
- 使用上の制限 : 所定の用途以外に使用しないこと

C. 製造業者/供給者/流通業者情報

○ 製造者情報

- 製造元/供給元 : ROCOL
- 住所 : ROCOL House Swillington Leeds LS26 8BS ENGLAND

○ 供給者/販売者情報

- 供給元/販売元 : 株式会社ITWパフォーマンスポリマーズ & フルuids ジャパン
- 住所 : 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町30-32
- 担当部署 : 品質管理部
- 電話 : 06-6330-7118
- FAX : 06-6330-7083

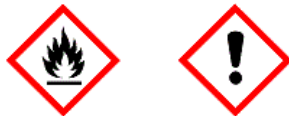
2. 危険有害性の要約

A. GHS分類

- 引火性エアゾール: 区分1
- 引火性エアゾール: 区分3
- 皮膚腐食性/刺激性: 区分2
- 慢性水生環境有害性: 区分3

B. 予防措置文句を含む警告表示項目

○ シンボル



○ 注意喚起語

- 危険

○ 危険有害性情報

- H222 極めて可燃性/引火性の高いエアゾール
- H229 圧力容器: 熱を加えると破裂する可能性がある。
- H315 皮膚刺激
- H412 長期的影響により水生生物に有害

○ 注意書き

1) 予防

- P210 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
- P211 裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
- P251 圧力容器: 使用後の含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
- P264 取扱後は取扱部位をよく洗うこと。
- P273 環境への放出を避けること。
- P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

2) 対応

- P302+P352 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。
- P321 特別な処置が必要である
- P332+P313 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。
- P362 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

3) 保存

- P410+P412 日光から遮断し、40℃以上の温度に暴露しないこと。

4) 廃棄

- P501 内容物/容器を都道府県/市町村の法令・規則に従って廃棄すること。

C. 有害・危険性分類基準に含まれていないその他の有害・危険性

○ NFPA等級 (0~4段階)

- 保健: 2, 火災: 3, 反応性: 0

3. 組成及び成分情報

- 単一製品・混合物の区 : 混合物

- 一般名 : 潤滑スプレー

化学物質名	慣用名及び異名	CAS No.	官報公示番号	PRTR法	含有量(%)
液化石油ガス	LPG	68476-85-7	-	-	55-65
ナフサ(水添脱硫、軽質、脱アロマ)	-	92045-53-9	-	-	15-25
アセトン	Dimethyl ketone	67-64-1	2-542	-	1-10

*GHS危険有害性分類対象物質と日本国内法規制対象物質のみ記載

4. 応急措置

A. 眼への接触

- 眼をこすらないこと。
- 大量の水を使用して、少なくとも15分間眼を洗い流すこと。

B. 皮膚に付着した場合

- データなし

C. 吸入毒性

- 多量の蒸気やミストに曝露された場合、直ちに新鮮な空気のある場所に移すこと。
- 必要に応じて適切な措置をとること。

D. 飲み込んだ場合

- 嘔吐をすべきかどうかについては医師の助言を取ること。
- 直ちに水で口をすすぐこと。

E. 急性および遅延性の主な症状/影響

- データなし

F. 応急処置および医師の注意事項

- データなし

5. 火災時の措置

A. 消火剤

- 炭酸ガス、ドライケミカル、耐アルコール性フォーム

B. 使ってはならない消火剤

- 水(炎を拡散する可能性がある)

C. 特有の危険有害性

- 消火活動の際には有毒ガスが発生するので、煙を吸入しないように注意する。

D. 特定の消化方法

- 適切な保護具を着用する。防護服を着用していない人を作業場から遠ざける。可燃性のものを周囲から素早く取り除く。爆発のリスクを最小限にする為、霧状の水を使用して容器を冷却する。

E. 消化を行う者の保護

- 空気呼吸器を含め、必要に応じて適切な保護具(耐熱性)を着用すること。

6. 漏出時の措置

A. 人体を保護するために必要な注意事項

- 作業者は適切な保護具("8. 暴露防止及び保護措置"の項参照)を着用して、眼、皮膚への接触や吸入を避けること。
- 風上で作業して、風下にいる人を非難させること。
- すべての発火源を取り除くこと。
- 保護具を着用した後、破損した容器あるいは漏洩された物質を処理すること。

-皮膚との接触、吸入を避けること。

B. 環境に対する注意事項

-漏出物が下水施設、水系に流入しないようにすること。

C. 浄化方法

- 大量漏出の場合、低い領域を避け、風上に止まること。後日処理のために堤防を築造して管理すること。
- 基準量以上排出時、中央政府、地方公共団体の排出の内容を通知すること。
- 廃棄物管理法（環境省）により処理すること。
- 漏出物質廃棄のため、適切な容器に回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

A. 安全な取り扱いのための注意事項

-データなし

B. 安全保管条件

-密閉容器に入れて回収すること。

8. 暴露防止及び保護措置

A. 許可濃度

- 日本許容濃度
 - [Acetone]: 200ppm, 470mg/m³
- ACGIHの暴露標準
 - [Petroleum gases (<0.1% 1,3-Butadiene)]: TWA, 1000 ppm
 - [Acetone]: TWA, 500 ppm(1188 mg/m³) STEL, 750 ppm (1782 mg/m³)

B. 設備対策

-データなし

C. 個人防護具

- 呼吸保護
 - 使用前に警告の特性を考慮すること。
- 眼の保護
 - 作業場の近くに洗眼設備と非常洗浄設備（シャワー式）を設置すること。
- 手の保護
 - 適切な耐化学性手袋を着用すること。
- 身体の保護
 - データなし
- その他
 - データなし

9. 物理化学的特性

A. 外観	
-性状	エアゾール
-色	無色透明
B. 臭い	芳香臭
C. 臭気閾値	データなし
D. pH	データなし
E. 融点/凝固点	<0℃
F. 沸点、初留点及び沸騰範囲	< 0℃
G. 引火点	< -100℃
H. 蒸発速度	速い
I. 引火性（固体、気体）	データなし
J. 燃焼又は爆発範囲下限/上限	1.8 - 9.4%
K. 蒸気圧	データなし
L. 溶解度	水に溶解する
M. 蒸気密度	データなし
N. 比重	0.6
O. 水/n-オクタノール分配係数	データなし
P. 自然発火温度	>200℃
Q. 熱分解温度	データなし

R. 粘度	データなし
S. 分子量	データなし

10. 安定性及び反応性

A. 安定性

- 常温・常圧、密閉保管であれば安定

B. 有害反応の可能性

- データなし

C. 避けるべき条件

- 直射日光、加熱、火源。

D. 混触危険物質

- 強酸化剤及び強還元剤。

E. 危険有害な分解生成物

- 燃焼などによりCO等の有害ガスを発生するおそれがある。

11. 有害性情報

A. 暴露の可能性が高いルートに関する情報

- (呼吸器)
 - データなし
- (経口)
 - データなし
- (眼・皮膚)
 - 皮膚刺激

B. 有害性

- 急性毒性
 - * 経口毒性
 - [Petroleum gases (<0.1% 1,3-Butadiene)]: データなし。
 - [Acetone]: ラットLD50>5000mg/kg (SIDS (1999)); (ACGIH (2001))に基づき区分外とした。
 - * 経皮毒性
 - [Petroleum gases (<0.1% 1,3-Butadiene)]: データなし。
 - [Acetone]: ウサギLD50>5000mg/kg (ACGIH (2001)), (SIDS (1999))に基づき区分外とした。
 - * 吸入毒性
 - [Acetone]: ラットLC50: 32000ppm(75.8mg/L) (SIDS (1999)) この値は区分4の判定基準の2.5倍 (50mg/L) の範囲外であるため区分外とした。(20℃、アセトンの飽和空気は230000ppmであり、吸入毒性試験は全て蒸気状態で行なわれたとみなす。)
- 皮膚腐食性/刺激性
 - [Acetone]: ウサギ皮膚に対して刺激性なし(EHC 207 (1998)), (SIDS (1999)) の記載より区分外とした。
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性
 - [Acetone]: 蒸気は人の眼を刺激する。しかし暴露が止まると刺激性は続かない(ATSDR (1994))。ウサギではsevereという結果が報告されている (ACGIH (2001))。角膜上皮は破壊されるが、基質までは至らず、角膜上皮の破壊は4-6日で回復する。アセトンは腐食性の眼刺激性ではない(SIDS(1999))。以上の記述より区分2Bとした。
- 呼吸器感作性
 - [Acetone]: Mouse ear swelling test 及びGuinea pig maximization test でnegative(SIDS (1999))と記載されているので、皮膚感作性は区分外とした。呼吸器感作性はデータがないため分類できない。
- 皮膚感作性
 - データなし
- 発がん性
 - * IARC
 - データなし
 - * OSHA
 - データなし
 - * ACGIH
 - [Acetone]: A4
 - * NTP
 - データなし
 - * EU CLP
 - [Petroleum gases (<0.1% 1,3-Butadiene)]: Carc.1B
 - [Naphtha (petroleum), hydrodesulfurized light dearomatized]: Carc.1B
- 生殖細胞変異原性

- [Petroleum gases (<0.1% 1,3-Butadiene)]: In vivo試験のデータがなく分類できない。なお、Ames試験 (invitro変異原性試験) の結果は全て陰性である [IUCLID(2000)]。

- [Naphtha (petroleum), hydrodesulfurized light dearomatized]: 遺伝性疾患のおそれ

- [Acetone]: in vivo 小核試験で陰性 (SIDS (1999))、(EHC 207(1998))により、技術上の指針に従って区分外と分類した。

○生殖毒性

- [Acetone]: 疫学調査で流産への影響なし (ATSDR, 1994) という報告がある。ラットの高濃度暴露 (11000ppm (20mg/L)) でわずかな発生毒性 (胎児体重減) (EHC, 207 (1998)) が、マウスの高濃度暴露 (6600ppm(15.6mg/L)) で胎児体重減、後期胚吸収率増 (EHC, 207 (1998)) が報告されている。EHCでは、ヒトと動物で更に検討が必要であるとの記載がある。以上のことより区分2とした。

○標的臓器/全身毒性 (単回暴露)

- [Acetone]: ヒトへの12000ppmの暴露で喉の刺激 (ACGIH (2001))、1190、2400mg/m³/6hの暴露で鼻、喉、気管の刺激 (EHC 207 (1998))、1000ppm/4hの暴露で喉の刺激 (EHC 207 (1998))の記載より区分3 (気道刺激性)、200mlを飲み込んだ男性に昏睡 (12時間後意識回復)、12000ppm暴露した労働者に頭痛、めまい、足の脱力、失神 (ACGIH (2001))の記載より区分3 (麻酔作用) に分類した。

○標的臓器/全身毒性 (反復暴露)

- [Petroleum gases (<0.1% 1,3-Butadiene)]: ラットを用いた90日間の吸入暴露試験 (用量: 1017, 4489 ppm/6h) において、NOAEL=4489ppmとされ、ガイダンスの区分2を超える4489ppmの用量で死亡ならびに毒性影響は観察されていない (IUCLID(2000))。また、21日間の吸入暴露試験(用量: 0.12、1.15、11.8 mg/L/6h (48, 469, 4808 ppm/6h) において、NOAEL=4808 ppmとされ、ガイダンスの区分2を超える4808 ppm(90日換算: 1122 ppm)の用量で死亡ならびに毒性影響は観察されていない (IUCLID(2000)) ことから区分外(吸入) に該当するが、リスト2のデータであり、他の経路の結果もないことから分類できないとした。

- [Acetone]: ボランテアによる試験で500ppm、6時間/日、6日の曝露群に白血球、好酸球の有意な増加及び好中球の貪食作用の有意な減少が観察されている (ACGIH (2001)) ので区分2に分類した。ラット、マウスの試験でもガイダンス上限値を大きく超えた投与量ではあるが、ヒトに見られたと同様な血液学的変化が認められた (SIDS (1999))。その他のラット、マウスの試験 (ACGIH (2001))、(SIDS (1999)) ではいずれもガイダンス上限値を超えており、ヒトでの報告例も無いので分類根拠として採用しない。

○吸入有害性

- [Naphtha (petroleum), hydrodesulfurized light dearomatized]: 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

- [Acetone]: 動粘性率は計算値で0.426mm²/secであり、化学性肺炎の動物データが無いが、C13以下のケトンであることより区分2とした。

12. 生態学的情報

A. 生態毒性

○魚類

- [Acetone]: 魚類 (ファットヘッドミノー) の96時間LC50>100mg/L

○甲殻類

- データなし

○藻類

- データなし

B. 残留性と分解性

○残留性

- データなし

○分解性

- データなし

C. 生体蓄積性

○生体蓄積性

- データなし

○生分解性

- データなし

D. 土壌中の移動性

- データなし

E. オゾン層への有害性

- データなし

F. その他の有害な影響

- [Petroleum gases (<0.1% 1,3-Butadiene)]: データ不足により分類できない。

- [Acetone]: 難水溶性でなく (水溶解度=1.00×106mg/L (PHYSPROP Database, 2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。

13. 廃棄上の注意

A. 廃棄方法

- 油と水の分離が可能なのは、油と水の分離方法で事前処理すること。

- 焼却して処理する
- 廃棄物管理法上の規定を遵守すること。

B. 廃棄上の注意

- データなし

14. 輸送上の注意**A. 国連番号**

- 1950

B. 国連輸送固有名

- AEROSOLS, FLAMMABLE, (EACH NOT EXCEEDING 1 L CAPACITY)

C. 輸送危険クラス (ES) :

- 2.1

D. 包装等級

- データなし

E. 海洋汚染物質

- 該当なし

F. 輸送上の特定の安全対策及び条件

- DOTおよびその他の規定により包装または輸送すること。
- 火災時の非常措置の種類 : F-D (Flammable gases)
- 流出時の非常措置の種類 : S-U (Gases (flammable, toxic or corrosive))

G. 緊急時応急措置指針(容器イエローカード)番号

- 126

15. 適用法令**A. 日本国内規制事項**

- 消防法
 - 第4類第1石油類(水溶性液体)
 - * 危険等級
 - II
- 労働安全衛生法
 - * 有機則
 - 第3種有機溶剤(51 石油ナフサ)
 - * 表示物質
 - 法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号・別表第9(17 アセトン, 330 石油ナフサ)
 - * 通知物質
 - 法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9(17 アセトン, 330 石油ナフサ)

B. 他の国内および国際法律情報

- 残留性有機汚染物質規制法
 - 該当なし
- EU 分類情報
 - * 分類
 - [Petroleum gases (<0.1% 1,3-Butadiene)] : F+; R12/Carc. Cat. 1; R45/Muta. Cat. 2; R46
 - [Naphtha (petroleum), hydrodesulfurized light dearomatized] : Carc.Cat.2; R45, Muta.Cat.2; R46, Xn; R65
 - [Acetone] : F; R11Xi; R36R66R67
 - * 危険有害性情報
 - [Petroleum gases (<0.1% 1,3-Butadiene)] : R12, R45, R46
 - [Naphtha (petroleum), hydrodesulfurized light dearomatized] : R45, R46, R65
 - [Acetone] : R11, R36, R66, R67
 - * 注意書き
 - [Petroleum gases (<0.1% 1,3-Butadiene)] : S53, S45
 - [Naphtha (petroleum), hydrodesulfurized light dearomatized] : S:53-45
 - [Acetone] : S2, S9, S16, S26, S46
- 米国の管理情報
 - * OSHA規定 (29CFR1910.119)
 - 該当なし
 - * CERCLA 103 規制 (40CFR302.4)

- [Acetone] : 2267.995 kg 5000 lb
- * EPCRA 302 規制 (40CFR355.30)
 - 該当なし
- * EPCRA 304 規制 (40CFR355.40)
 - 該当なし
- * EPCRA 313 規制 (40CFR372.65)
 - 該当なし
- ロッテルダム協約物質
 - 該当なし
- ストックホルム協約物質
 - 該当なし
- モントリオール議定書物質
 - 該当なし

16. その他注意事項

A. 参考文献

- このSDSはKOSHA、NITE、ESIS、NLM、SIDS、IPCSなどに基づいて作成してあります。
- GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253
- 危険及び有害性評価は十分ではない場合がありますので、お取り扱いには十分にご注意ください。
- 本製品安全データシートは当社の製品を適切に使用するために注意する事項を簡単に整理したもので、通常の取り扱いを対象に作成されております。
- ここに記載された内容は現時点で入手出来た情報やメーカ所有の知見に基づいて作成しており、そのデータや評価はいかなる保証をなすものではありません。
- 法令の改訂及び新しい知見により改訂されることがあります。

B. 作成日

- 2017-04-21

C. 改訂回数及び最終改訂日

- 該当なし

D. その他

- この情報は労働者の健康、環境、安全を保護するため、現在使用可能なDBに基づいて作成してある。